

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200080		
法人名	社会福祉法人 静岡和洋福祉会		
事業所名	グループホーム 浜屋		
所在地	静岡市駿河区中島2566-6		
自己評価作成日	令和2年 7月 2日	評価結果市町村受理日	令和2年 8月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和2年 7月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちの施設は「あたり前の生活の提供と寄り添う介護」を理念に掲げています。昔ながらの日本家屋の造りになっており、懐かしさや馴染みを感じる事が出来る点はハード面での自慢の点です。そのハードに負けない様に日々の生活を充実させる事にも力を入れています。入居者が今まで普通に行えてきたことを、ここ浜屋でも行うことが出来るように職員一人一人が意識を高く持つ必要があると考えています。「普通の生活を送る」という共通認識の下、互いの意見を出し合ってケアの充実について考えている職員がたくさんいる事が自慢の点です。昨年度からは「もっとたくさんの方々良さを知って頂きたい」という想いから「浜屋カフェ」を開催致しました。これからも地域の方々との関わりを深めていける様な施設でありたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念「あたり前の生活の提供と寄り添う介護」に則した事業所の運営理念を掲げ、職員全員が実現に取り組んでいる。利用者にとってのあたり前を念頭に置き、心地よい時間を共に過ごし、常に優しい気持ちで接している。全体会議である「浜屋会議」は月1回実施している。夜勤者も例外なく出席しており、職員全員が同時に話し合いに参加する事で支援に対する姿勢や方向性が統一されている。支援に関するルールから外れた行為等については、管理者や主任がその場で指摘し説明することで、事前に大きなミスを防いでいる。玄関、ドア、窓の施錠は一切せず、まず利用者の要求を満たすために適度に距離をおき見守りながらタイミングを見て寄り添っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念を「あたり前の生活の提供と寄り添う介護」と掲げ、浜屋独自でもさらに3つの副題を掲げています。GHとして「地域とのつながりも大事に出来る様に」という意味合いを含めた理念を、職員皆が意識しながら、日々入居者様と関わっています。	隣接する同法人の特別養護老人ホーム「なごみ」から異動してきた職員がほとんどで、皆が法人理念を暗記している。利用者それぞれの生活スタイルに着目し、事業所また職員にとってのあたり前にならないように気をつけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催されている行事には、自治会様から誘って頂く事が多く、運動会・浜のなかま等にもいつも参加させて頂いています。朝の散歩の際に有人販売に行き、近所の皆様とお話をしたり、地域の一員として生活させて頂いている事を感じています。	自治会に加入しており、回覧板を利用して前年度は初の浜屋カフェを開催した。地域の中学生が体験学習として数時間のレクリエーションに参加している。地域支え合い活動「浜のなかま」での月1回のおしゃべりが貴重な交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、その時期に必要な情報をまとめて発表(感染症など)しています。また、以前入居されていた入居者様の御家族や、地域の方から相談のお電話を頂く事もありました。その都度相談に乗り対応させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎事故報告とヒヤリハットの報告をさせて頂いています。参加者の皆様それぞれの視点から感想や意見を頂いています。処遇改善の為の貴重な機会だと考えています。	会議には利用者9名のうち6~7名の家族が毎回参加している。事故報告の検討見直しについては、迅速に対応し当事者家族に結果を知らせている。コロナ感染対策として4月の会議は中止して書面のみを配布した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市の介護保険課様に毎回声掛けをさせて頂き、年度初めには参加もさせて頂いています。その際にお話やご意見を伺ったり、必要に応じて訪問し相談をさせて頂く事もあります。	運営推進会議に年1回市の担当課から参加があり、年度始めには自治会長の参加がある。現在の市窓口との接点は必要最低限であるが、今後利用する予定の成年後見人制度での関わりを機会とし、関係性を深めていく考えである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスクマネジメント委員会を設け、課題に対して自己を見つめ直す機会にすると共に、他職員に対しても互いに意見を言い合える環境にもなっていると思います。建物が死角の所も多いのですが、見守り方法や意識の持ち方で対応を図っています。	事業所で3ヶ月に一度実施するリスクマネジメント委員会の中で勉強会や自己チェックを行っている。法人全体の研修にも年2回参加している。離設する利用者がいても施錠せず、「職員全員で見守る」を共通ルールとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での勉強会に職員皆が参加する様にしています。ケアをしていく中で、衝突しそうな時には他職員に代わって対応をしたり工夫をしています。また、言葉も虐待に当たるという事を認識出来る様に自己判断シートなどを行いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在浜屋では、該当する入居者様はいませんが、今後の事を考えて会話に出てくる事があります。管理者等、成年後見人制度に関する説明会に参加し、知識を得る様になりました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際や、契約の変更点があった際にはその都度、説明と同意を得ています。また、日常的にもご家族様とのコミュニケーションやご意見を頂く機会を大切に、安心して頂ける様に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様との関わりは日常的に多く、様々な意見を頂いています。その際に得られた情報やご意見を職員間で話し合いケアの改善につながる様に努めています。	利用者の高齢化により、受診に関する家族の負担が増えている。家族の希望もあり、5名がかかりつけ医を開設1年の近隣診療所に変更した。管理者や職員との関係性が良好である事は、家族アンケートの回答から確認できた。	家族同士の関係性を深める事で、情報交換や不安の軽減に繋がる場合もある。今後の課題として、同じ家族同士で話をする機会や場を設ける事が期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員の意見や話し合いは日常的に行われています。職員同士でまとめた意見を管理者に提案する事もありますし、直接管理者に相談を持ちかける事も度々あります。互いの関係性が上手くとれていると思います。	管理者が毎年秋冬の時期に個人面談を行い、話を聞いている。理事長の個人面談も年1回予定されているが、不定期である。新たな職員に対しては、ケアマネジャーが必要と判断したタイミングで指導を兼ねて話を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と職員にとって、コミュニケーションを図る事はとても大切だと思います。浜屋ではその点に関しては自慢できる程、互いに信頼し合っています。その中でも、オンオフを切り替えて仕事に取り組んでいると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で行われている苑内研修に、皆が参加する様にしています。浜屋独自でも必要と思われる事については、会議などで勉強の時間を設けています。職員間でも研修内容について話し、その後のケアに繋がっていると思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	浜屋で行った浜屋カフェでは市内のケアマネ様や包括支援センターなどにも来苑頂き、浜屋を知って頂くだけでなく、互いの意見を聞かせて頂く機会になりました。互いの活動を通じてケアに生かしていく事が出来れば良いと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報収集を初め、入居してからのご本人様の希望や不安などを伺い職員間で情報共有をしています。その中からご本人様が安心して過ごせる様な環境や空気を作り出せる様に努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様の状況に加えてご家族様のお気持ちや、生活環境も重要だと捉えています。入居前や入居してからも、ご家族様の面会時にはなるべくコミュニケーションを図り、お気持ちを把握していける様に心掛けております。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族様とご本人様が、最優先としている課題がある場合には、その為に必要なケアやどのような社会資源が必要かを検討し、導入しています。現在では訪問歯科・訪問マッサージなどを利用されている入居者様がいらっしゃいます。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に生活をする」という気持ちでケアが一方的にならない様に、出来る事ややりたい事を見極めてお手伝いをする様にしています。不安な所・出来ない所を「一緒に行う」という考えで対応をしています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様には、受診や外出をお願いをしています。入居者様とご家族様、職員が三角関係となって入居者様を支えられる様に、日頃からのご家族様とのコミュニケーションの機会を大事にしてより良いケアに繋がればと考えています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人との手紙のやり取りが継続出来る様に介入をしたり、今年はコロナが流行し面会が難しい中、テレビ電話や電話でコミュニケーションが取り易くなる様に仲介に入る・SNSで写真を送る等を行い、関係性が途切れない様に対応してきました。	通常は土日に家族の面会が多いが、コロナ感染対策により面会制限を余儀なくされている。利用者の高齢化と家族の世代交代に伴い、自宅での受け入れが難しくなっている。受診時に家族と外食や買い物をする利用者がある。年賀状は利用者が出したい人に書いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が良好な関係性が保てる様に、必要に応じて仲介に入っています。その時々で介入すべき状況が違うので状況を見極めたり、予想をしながら対応をする様に努めています。体力等にも考慮し、出来る範囲でレク等に参加出来る様配慮しています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたあとに、お電話をしたり転居先に伺わせて頂いたりしました。逆に相談のお電話を頂いたり、来苑して頂いたりする事もありました。施設に入居されていた時だけの関係性にならない様に心掛けています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の想いを親身になって聴く事で安心感を持って頂ける様心掛けています。日頃の発言や行動をよく観察したり、意見を聴く事でその方に合った生活を送る事が出来る様に努めています。また、いつもと違う変化が無いかにも注意しています。	日々の関わりの中で、一緒に散歩に出掛けて話をしたり、お風呂でゆったりとした気持ちの時に『今後何をしたいのか』『どのように暮らしたいのか』など、言葉や表情から観察し把握している。また、家族や関係者からも情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や趣味嗜好は入居前にも伺う様にしていますが、入居後も、会話の中からヒントを見つけています。ご本人様にとっての「あたり前」「好き」「馴染み」を知り、共有する様にしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集団生活の中での個人の生活を大切に考えています。些細な事でも記録に残し情報を得たり、毎月の会議でも個別処遇に充てる時間を充実させ、お一人お一人のケアが疎かにならない様に気を配っています。入居者が今何を必要としているのかをすぐにキャッチ出来る環境でありたいと思います。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ1人で計画を立てるのでは無く、職員の意見やアセスメントを基本に、ご本人様の現在の状態と、必要なケアを組み込む様にしています。毎月、会議の中で個別処遇を話し合い、プランよりもさらに細かいケアの充実を図れる様にしています。	利用者の担当職員が評価表でモニタリングをし、浜屋会議でアセスメントから利用者の状態を確認して意見を聞くようにしている。計画を見直し、更に支援の方法を検討している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、当日出勤の職員皆が記録を残すように心掛けています。ご本人様が発していた言葉や行動を他の職員とも共有出来ていると思います。また、記録以外にも日頃から職員間で処遇に関する話し合いや相談が、自然と出来ていると思います。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の中で沢山の人の関わって生活を送って頂く事が出来る様に、沢山の社会資源を利用する様に心掛けています。町内の行事や、訪問歯科、訪問マッサージ、美容院など、ご本人様に必要と思われる事を生活の中に取り入れる工夫も考えています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事(浜のなかま・運動会など)へ参加させて頂いたり、お散歩中のご近所さんとの会話、農家さんへの買い物等、施設だけの生活では無く、地域の一員として感じて頂ける様な時間が設けられていると思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、ご本人様のお身体を理解して下さっている先生に診て頂く為に、以前から通っていた病院への通院をお願いしています。ご本人様の状態や環境などを考慮し、浜屋の近所の診療所へ移行している方もいらっしゃいます。職員が代行した際には、その都度ご家族様に報告を行っています。	今までのかかりつけ医に受診している方は3名で、他の利用者は事業所近隣の診療所で受診している。基本的には受診はご家族が同行しているが、職員が同行した場合は家族へ、また家族からも報告を受けている。歯科医は定期的に往診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐している看護師はいませんが、同法人の看護師と連携体制をとっているため、申し送りや相談など細かく行っています。受診の必要性や処置など指示を仰ぎ、経過観察も含めて報告も細かく行う様になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は出来る限りお見舞いに伺い、状態を把握出来る様に看護師やご家族様から情報収集をしています。また、施設でのご様子や生活リズムなど、こちらからお話をさせて頂いています。退院時には、病院から施設での生活がスムーズになる様に申し送りを細かくして頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	先を見越す事が出来る部分については、前もってお話をさせて頂いています。常日頃、ご家族様やご本人様とどのように最期を迎えたいか等の話をする事で意見を伺う様にしていますが、実際には、その時にならないと分からない事も沢山あるので、随時説明を行い、ご家族様の感情も汲み取って対応させて頂いています。	重度化や終末期のあり方について家族から意見を聞くようにしている。利用者の身体的な面を事業所で支える事が出来るか、また経済的な面などを考慮し、同法人内で情報を共有し検討している。以前看取りを行った時には、管理者と主任が職員をフォローして支援を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、AEDの施設内研修に皆が参加しています。消防署が開催している救命講習にも参加をし、専門的な知識の習得を目指しました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	大規模な災害時に備えたBCPマニュアルの作成をしています。同法人との合同の防災訓練を実施し、災害時の協力体制を整えています。職員に聞き取りを行い、災害時用に用意してほしい物等の購入も行いました。	防災訓練は同法人の特別養護老人ホームと合同で行っている。事業所から地域の防災訓練への参加はないが、災害時の住民の受け入れ対策に協力体制を築いている。非常用の食料は法人で備蓄しているが、事業所でも2~3日分の飲料水など準備している。	防災訓練は同法人の他施設と合同で行っているが、事業所独自の訓練も必要ではないかと思われる。火災、地震、水害それぞれを想定し、夜間想定訓練も実施することが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を持って接する様になっています。慣れ合いの関係では無く「生活のお手伝いをする」という気持ちでいます。他者に聞かれたくない事は場所(入浴時や居室等)を考慮して話しています。出来るだけ否定をせず、ご本人の発言からお気持ちを汲み取る様に努めています。	人前での介護は、十分注意をしてさりげない対応に配慮している。プライバシーを損ねないように、特に言葉かけには職員全員で気を付けている。いつも「ありがとう」を利用者に言葉で伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の意見をはっきりと伝えられる方ばかりではないので、日頃の会話や生活の中から好みを探ったり、選択時には、答え易い質問の仕方をする事で意見を伺う様にしています。また、周りへ気を遣われている方に対しても、先回りした対応で想いを伺える様に配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望を伺い、どの様に過ごしたいか(寝たい・食べたい・勉強したい・仕事したい等)を把握する様にしています。ご本人様のご様子を見て、職員に伝えられない気持ちを汲み取るように配慮をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の際には、好みの髪型やカラーを聞いて美容師に伝え、対応して頂いています。お化粧品やマニキュア等、女性として楽しめる様な事も行っています。また、整容・身だしなみにしてはいつでも気にかける様に心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせたイベントやメニューを考えたり、献立も皆さんのリクエストを伺って取り入れる事で、満足して頂ける様に努めています。準備や片付けを一緒に行い、皆で食卓を囲む事が出来ていると思います。おやつは市販品だけに頼らず、手作りもしています。	利用者と相談しながら季節のものを取り入れて献立を立てている。食事の準備から片付けなど、利用者の出来ることを職員と共に行っている。今までは皆で食卓を囲んでいたが、コロナウイルス感染対策を踏まえて、現在職員は他の部屋で利用者と同じものを食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の体調や状態に合わせて食事量の調節や、食事形態の変更を行っています。噛み辛い・嫌い等にも味付けの工夫や食べ易い物への変更などで対応しています。水分摂取が苦手な方も多いので、こまめに提供を行い水分量の確保を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の医師に指示を仰ぎ、口腔ケアに関しては必ず職員が付き添って、磨き残しが無い様に且つ、異常時の早期発見に努めています。プラスαで必要に応じてうがいやの施行や口腔内の観察を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様の状態に合わせて誘導や交換を行ったり、パットの種類を検討しています。オムツを着用している方でも様子を見ながら自然な形で排便出来る様にトイレに誘導しています。夜間は安眠出来る様に紙パンツやオムツを着用される方もいます。	個人記録で排泄時間を確認し、食前食後の誘導以外は個々に合わせてトイレに誘導している。利用者自身でパット交換が出来るように、パットの種類を検討して排泄の自立に向けて対策をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人お一人の生活習慣や食事摂取の状況などを観察する事で、薬に頼るだけではない排便の促しができる様に努めています。ご本人様にあつた食品を取り入れたり水分摂取、日常的な運動などを取り入れる様にして、入居者様毎に対応が図れていると思います。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や希望に沿って2日に1回は入浴して頂ける様対応しています。入るタイミングや順番、入浴～最後までマンツーマンが良い！等、出来る限り要望に添う様にしています。入浴中の入居者様とのコミュニケーションの時間は特に大事にしています。	利用者のその日の希望を確認してから入浴している。入浴を拒む利用者に対しては、一緒に洋服を選んだり誘い方などを工夫をして支援を試みている。入浴剤やシャンプーは事業所で準備し、洗顔フォームは自分で用意している方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態やご本人様の希望に応じて臥床時間を設けています。また、夜間の安眠を促す為に、日中の活動量を増やしたり、臥床(お昼寝)時間をとり過ぎない様にしたり、個別に対応をしています。就寝に関しても休みたい時間に休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の処方の変更になった際には、その効果やその後の症状の変化(副作用も含め)などの観察を行い、記録に残しています。必要に応じて次回の受診まで日がある場合でも医師に相談を行う等の対応をとっています。与薬に関しては入居者様それぞれの与薬方法を統一しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃生活をしている中で得られた情報を基に、ご本人様のやりたい事や得意な事が行える様に努めています。職員と個々でお出かけをしたり、散歩や家事が気分転換になる方もいらっしゃいます。その事が生活の張り合いになればと考えて対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の希望(外食・墓参り等)があれば、ご家族様に相談をしたり、方法を考えて出来るだけ叶えられる様に努めています。今年度に入ってからコロナの影響で外出が厳しいのが現状ですが、散歩に出かけたり畑の作物を収穫したりするなど、外での気分転換も図れる様に考えて行っています。	家族と共に外出をして外食など楽しんでいる。日常的には、散歩や受診または近隣の畑での野菜や果物の収穫をしたり戸外に出掛けるなどコロナウイルス感染で厳しいが気分転換やストレスの発散の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大きな金額は事務所(職員)が管理していますが、ご本人がお財布を持っている場合もあります。お散歩に出かけた際にジュースやお菓子を自分のお財布から払ったりしています。紛失の可能性がある方に関しては職員が預かったり、ご家族へ前もった説明をした上での自己管理とさせて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	テレビ電話を利用して遠方のご家族とお話したり、会話をすることが難しい方に関しては職員が電話口で仲介に入る等の対応をしています。また、旧友との文通をされている方に対しては、投函や住所書きなどの援助を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和風の造りの苑内に対して、違和感の無い設えにしています。昔ながらのテレビや黒電話など馴染みのある家具を置いたり、生花を飾り、目で季節を感じて頂けるような配慮もしています。ひな祭りや七夕等のイベントに合わせた設えで季節感を感じられる様に努めています。	事業所全体が和風造りである。事業所内は備品も昔ながらの物で、落ち着きがあり居心地の良い共有空間である。廊下も広くテーブルなど置いてあり、日も入り会話が弾みます。また、庭先には季節が感じられる草花が植えてある。掃除は職員と共にみんなで一緒に事業所を大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が複数あるのも浜屋の特徴なので、大いに利用して頂いています。死角となる部分も多いので、一人になりたい時には、敢えて声掛けをせず様子を見る様にしています。事故が起きない様に、所在確認の徹底と職員間の声掛けを行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、ご本人様が今まで使用していた家具を持参して頂いたり、思い出深い写真を飾る事に加えて、入居者様の安全面を考えて(許可を得たり一緒に話して)家具を配置する事で、安心して安全な居室空間になる様に工夫しています。	ベッドは事業所で用意されているが、仏壇、家族写真、携帯電話、テレビさらに今まで使用していたクローゼットなどが置かれ、利用者のそれぞれの意向や好みに合った居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー化していない環境や、あえて作ってある死角などの造りが身体機能の維持に繋がると考えています。その分、リスクも抱えているので、事故につながらないように、安全に生活を送る事が出来る様に努めています。		